

後志管内ではこれまで、ニシンやサケをはじめとする豊かな水産資源に支えられ、水産業が地域経済や漁村の暮らしを支えてきました。しかし近年は、秋サケなどの不漁により漁業収入が不安定となり、水産業従事者からは企業活動への影響を懸念する声が聞かれています。また、漁村の人口減少や漁業者の後継者不足といった課題も深刻化しています。

こうした状況を踏まえ、後志管内では、漁港を活用した養殖や水産物の販売促進、観光と連携した体験型事業など、水産業や漁村の魅力を活用して地域のにぎわいや所得、雇用の創出を目指す「海業（うみぎょう）」の取組が進められています。本レポートでは、令和6年3月に「海業の推進に取り組む地区」に選定された泊村の盃漁港（カブト地区）を取材し、その取組内容や地域活性化への期待について紹介します。

1. 海業の概要と取組

海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用する事業であって、国内外からの多様なニーズに応えることにより、地域のにぎわいや所得と雇用を生み出すことが期待されるもの。 出所：水産庁ホームページ「海業について」

(1) 海業の主な取組

■ 海業の場として漁港を活用



水産物販売施設



岸壁前に立地するレストラン



漁業体験



漁村の魅力を活かした宿泊(渚泊)



釣り体験



調理体験

(2) 後志管内での水産庁の取組

- ・後志管内で、全国で初めての「海業マッチング会（※）」を開催。

（※）行政・漁業者・企業など、多様な主体が直接交流し、連携の可能性を見いだす場

- ・祝津、古平、美国漁港を活用した取組の検討や体験型ツアーの展開に向けて、旅行会社等の民間企業との意見交換会を実施。



出所：官民連携海業振興ポータルサイト

(3) 後志管内の「海業の推進に取り組む地区」

後志管内では、6団体（7漁港）が「海業の推進に取り組む地区」に決定している。

公表年度	市町村名	漁港名
令和6年3月	寿都町	寿都漁港
	泊村	盃漁港 (カブト地区)
	神恵内村	神恵内漁港
	古平町	古平漁港
令和7年3月	積丹町	美国漁港
		余別漁港
	小樽市	祝津漁港

2. 泊村のサーモン養殖について



出所：水産庁ホームページ「「海業の推進に取り組む地区」について」

(1) 背景

- ・村では、漁業者の高齢化に伴う漁業者不足が深刻化しており、特に盃漁港(カブト地区)においては、漁港が小規模であることから製氷等の施設を整備しきれないこともあり、漁港の利用頻度が低いことが大きな課題と認識していた。
- ・そのため北海道から漁港の新たな利活用を求められており、令和3年から「北海道とまりカブトサーモン」試験養殖事業に取り組むことになった。
- ・漁港の利活用や、厳冬期における漁業者の所得向上を目指す姿勢が海業の取組に合致し、令和6年3月に「海業の推進に取り組む地区」に決定した。

(2) 養殖サーモンの概要

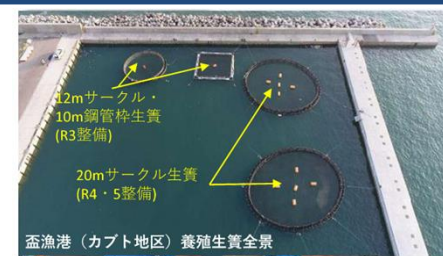
- ・源義経の残した兜が姿を変えて岩になったという伝説が残るカブト岬（兜岩）から、食の安全や地域の未来といった大切なものを、兜のように守るという想いが込められ、「北海道とまりカブトサーモン」と命名。
- ・「脂身が強い」と言われることの多いサーモンの中でも、「北海道とまりカブトサーモン」は飼料の調整によって脂質分が低く、さっぱりとした味との評価を得ている。



出所：「北海道とまりカブトサーモン」ホームページ

(3) 養殖の様子

- ・現在では4基の生簀で養殖を行い、令和8年度から5基へ増やす予定。
- ・荒波からサーモンを守るための防波堤嵩上げや、漁港内での海水滞留改善に向けた防波堤の穴開けなどを検討中。



出所：水産庁ホームページ「「海業の推進に取り組む地区」について」

- ・漁協魚類等養殖部会(地元漁師19名)が中心となり、漁の合間に給餌や出荷作業を行う。
- ・海水温の変化によるサーモンの状態を見極め、給餌量を調整。
- ・泊村役場では収穫を手伝うほか、補助金の助成も行う。

出所：「北海道とまりカブトサーモン」ホームページ

- ・現在、試験養殖により事業の採算性を検証中であり、引き続き経費削減に向けた飼育方法の改善や種苗・飼料の購入方法について情報収集し、事業化を目指す。

	水揚げ尾数	生存率(%)	水揚げ重量(kg)	平均重量(kg)	水揚げ金額(千円)
令和3年度(第1期)	812	97.4	2,162.35	2.66	-
令和4年度(第2期)	5,696	95.8	12,665.35	2.22	13,664
令和5年度(第3期)	8,180	69.5	14,345.50	1.75	19,371
令和6年度(第4期)	16,850	90.9	25,436.00	1.51	26,542

出所：泊村役場



(4)養殖サーモンを広める取組

「泊村地域産品ブランド化プロジェクト」

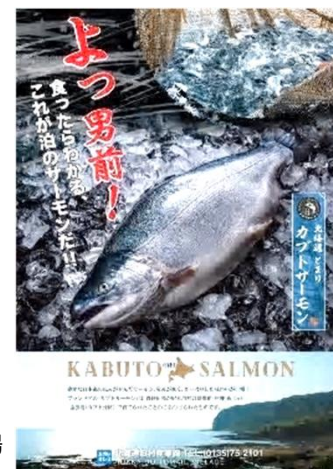


出所：泊村役場

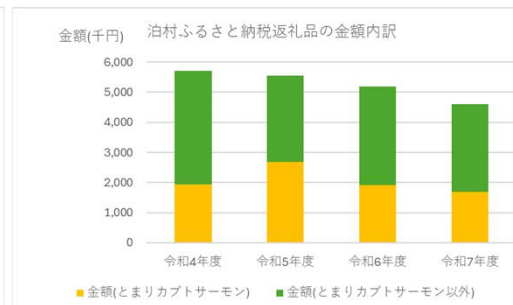
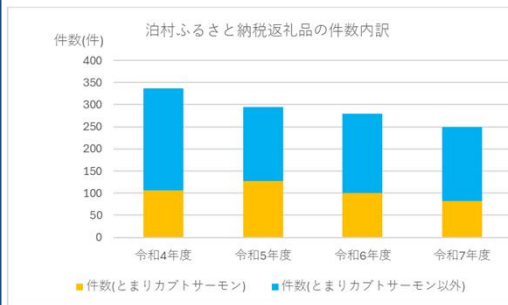
- ・泊村総合戦略（第2期）における、基本目標4「安心して幸せに暮らすことができる魅力的な地域を作る（域学連携による交流事業）」の一環として企画。
- ・小樽商科大学や札幌学院大学と連携し、令和7年8月、コープさっぽろのつぽろ店において、試食・販売会を実施。
- ・価格や販売形態についてはフィールドワークの際に、学生がグループワークを行った結果により決定した。

ふるさと納税

- ・令和元年より地域産品のPRを主な目的として開始。
- ・令和7年度ふるさと納税返礼品の合計金額のうち、北海道とまりカブトサーモンの金額は1,683千円となっており、全体の約4割弱を占める。



出所：泊村役場



出所：泊村役場からの提供データを基に当所作成

3. 課題・まとめ

- ・泊村役場からは、地球温暖化などによる水産資源の減少に伴い、国や道により『採る漁業』から『育てる漁業』への転換が推進されているとの声が聞かれた。また、現在実施中のサーモン養殖のほか、新たに養殖可能な魚種を模索しており、今後は養殖事業に関する種苗・飼料代といった費用に対して、国や道への補助制度等の創設を期待しているとのことである。
- ・当所としても、気候変動による漁場環境の変化や新たな養殖事業の展開状況に注目しながら、地域水産業の成長に向けた取組を継続してみていきたい。